

(仮称)第4次秋田市子ども・子育て未来プラン(案)に対する意見募集結果 (その他の意見について)

事業への提言や行政が策定する計画などに関するご意見につきましては、関係課所室に情報として提供しており、今後の政策立案などの参考といたします。貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

No.	項目	意見要旨
1	こどもの医療費助成の対象拡大について	秋田県や国の施策と連動した拡大ではなく、秋田市独自の財政的裏付けのある施策ということか。秋田県の先導役として、秋田市独自の施策を積極的に推進すべきだと思う。
2	14年連続となる年度当初の待機児童ゼロについて	仕事の復帰時期が年度当初とは限らず、このことは誇って書くことなのか。逆に年度当初以外で待機児童になっている人にとっては、反感を招く表現では。
3	第3次プランの評価について	B評価が約8割、A評価が2割に対して「おおむね」良好な成果を上げていると表現されているが、これは「秋田市社会福祉審議会児童専門分科会(秋田市子ども・子育て会議)」が判断したのか。
4	計画の対象について	子ども、の定義がないので入れたほうがいいのか。非成人を意味すると思うので「0～18歳未満まで」などの条件が必要ではないか。同様に、「子育て家庭」「若い世代」の定義も必要ではないか。
5	第3次プランの評価について	Bの「ほぼ同等の成果」、Cの「一定の成果を上げたもの」とは、「どのようなもの」を「誰の判断」で言うのか。意図をもって、恣意的に評価できる項目だと思う。BとCは目標達成しておらず、成果と評価についても不明なのに、P2にある「おおむね良好な成果」を上げたと総合的に評価できるのか。秋田市では目標未達であっても別の成果を上げていれば、改善不要で、施策に問題はないという認識なのか。評価基準が曖昧だと思うため再検討すべきでは。Aの上に、特筆するなどといった目標より上の成果を求めないのはなぜか。秋田県の人口減少率を鑑みても、のんきにしている状況ではない。評価を恐れず、目標より上の成果も検討すべきだと思う。
6	世帯数の推移について	近くに親戚が居ない可能性のある移住者は区別して集計した方が良いのでは。移住者施策を推進しているなら、周囲に助けてくれる親戚の居ない移住者は支援が必要だと思う(特に移住者で共働きの場合など)。移住者を増やすのなら、現実的な問題への対処としてデータに盛り込むべき。その他の親族世帯とはどういったケースがあるのか。平成12年との比較でマイナス5000件、夫婦と子ども世帯のマイナス4000件より多いため、ある程度情報はオープンにしても良いのでは。
7	ニーズ調査の結果について	以下の設問のない項目について、設問を設けた方が良いと思う。 ・育児の方法がよくわからないこと→小学校になると育児の方法がよくわかるということか。育児が就学前までという定義であれば、文言を変えたほうがよいのでは。 ・子どもが言うことをきかないこと→小学校になると言うことをきくということか?小学校の家庭に聞かない理由がわからない。
8	ニーズ調査の結果について	育休取得のデータのみで「企業等のワーク・ライフ・バランス意識のさらなる醸成を進め、夫婦ともに仕事と家事、子育てを両立しやすい職場環境づくりに一層取り組んでいく必要があります。」という結論を得ている。他に要素があるなら、質問項目に入れるべきでは。また、育児休業取得の有無と「取得していない」理由を聞いている一方、取得後に関する情報がない。期間や取得による影響・評価は課題発見に結びつくと思うので聞くべき。聞いている場合、データを掲載すべきではないか。
9	基本理念について	この宣言は、秋田市の現状を正確に表現していると思う。

No.	項目	意見要旨
10	基本理念について	<p>以下の案を考えてみたが、私見であり、こだわらずに考えてほしい。内容の順番を子どもに関するものを先にして少し変えて、子どもが権利主体であることを社会で共有するというを加えてみた。できれば、そのための施策もほしいと思うし、個々の計画でもそれを意識したものになれば、とも思う。</p> <p>-----</p> <p>わたしたちは、未来を担う子どもや子どもを生み育てたいと願う若い世代に、将来への希望を抱くことができる秋田市の姿を示していかななくてはなりません。誰もが、仕事や家庭、地域など各場面において、充実した生活を送ることができる社会の実現が望まれます。</p> <p>明日を担い、未来を築くこども一人ひとりには、権利の主体として尊重され、基本的人権が保障されること、すべてのこどもが差別されることなく権利の主体として尊重されなくてはならないことを社会全体で共有することが望まれます。こどもにとっての最善の利益を第一に考え、こどもの健やかで幸せな成長を支え、見守るとともに、こどもや子育て当事者の意見を尊重し、こどもとこどもを生み、育む家庭とその一人ひとりを地域や社会で支え合う環境を整えることが必要です。</p> <p>そのためには、青年期や子育て期、中高年期といったライフステージごとの様々な状況にある方々に寄り添い、様々な生き方が選択・実現できるようワークライフバランスを推進していくことが求められます。</p> <p>これらはこどもや子育て家庭、関係者のみならず、少子化に臨むわたしたちみんなの課題となっています。</p> <p>地域社会における企業・学校・関係機関等の連携を強化し、子どもが笑顔で、安全に、安心して健やかに育ち、子どもを生み、育てることに夢や誇りをもつことができる「笑顔あふれるこどものまち」をみんなではぐくむことが、時代に対して私たちが果たさなければならない責任なのです。</p>
11	計画の進行管理と推進体制について	目標指標が全事業で設定されておらず、客観的な数値で測れないのでは。目標指標を全体的に見渡すと、利用者目線に立っているか疑問と思われる。目標指標の設定過程がない。基本施策、計画全体は誰が評価するのか。主語が抜けている。
12	年度途中の0歳児の待機児童発生について	0歳児学級がない、または育休が取れないと推察されるが、どのような事が課題だと把握し、課題への対応はしているか。
13	保育料について	前年度の所得を元に計算されるため、入所時期によっては、経済的な負担がとても大きい。保育料の無償化をすべきでは。住民税非課税世帯の恩恵が大きいと感じる。共働きで毎日時間がなく、時短勤務では、手取りも少ない。秋田市は経済が弱いのに、中間層に対する施策が少ないのでは。経済状況を下の層に合わせる必要はなく、これでは晩婚化で肉体的にも限界がある中で、経済的にも疲弊し、秋田市の経済も人口も上向くことは無いと思う。秋田市に移住して13年経つが、故郷の13年の変化と比較すると残念である。
14	奨学金返還助成事業	R9から打ち切りだとすれば、仮にR8に奨学金を借りた人は対象外とすると、実質、R6年度卒業生で打ち切りということか。
15	産後ケア事業	事業施設が増えてきたが、受けられるサービスの質に差があるように感じる。他の市町村ではアウトリーチ型（訪問）もあるので秋田市でも検討していただきたい。
16	保育ニーズが多様化している点について	ベビーシッターを利用しているがやりたいことをやってもらえない状況である。秋田市はベビーシッター事業者が少ない。ベビーシッターの推進を事業化してはどうか。
17	一時預かり	詳細は各園に電話で聞くしかなく大変だった。情報をまとめた一覧などがほしかった。
18	病児保育	登録や利用時のハードルが高く、頭を下げて会社を休んだ方が早いと感じる。

No.	項目	意見要旨
19	仕事との両立について	子どもが熱を出せば、保護者は数日仕事を休む。そして、秋田市では共働きやシングル世帯での勤労が多いと思う。そういった、現実的などころを落とさずに施策を決めるべきである。
20	施策3-1の目標指標について	すべて利用者目線に立っていない指標だと思う。1の子どもの年間利用者数を増やせば、課題やニーズは満たされるのか。交流できている者は増え、相談事業等の支援が来ているのか、利用者数では図れないのでは。2の協力会員数を増やして、充足するのか。すでに充足しているなら、目標として不要ではないか。利用者数の増加が伴わないと需要と供給がミスマッチになり、事業として目標指標とする意味がないのでは。3と4は利用者目線に立って、利用率を指標にすべき。100%交付すべき。皆忙しいなか窓口に行っているのに、このような数字を出して恥ずかしい。工夫が足りない。
21	子育てサポートクーポン券	保育園に預けても使えるようすべき。仕事のために0歳児から預けている人は、もらい損で嬉しくないのでは。そのうえ、税金も払っているので、仕事する方が損だと感じて、馬鹿らしくなってくる。仕事と子育ての両立を支援すると書いている一方、クーポン券は保育園に預けると使えないというのはおかしい。こどもにとって、親の就労状況は関係なく、宣言にあるとおり、こどもにとっての最善の利益を優先するなら、全員に等しく利用してもらうべき。もし、市の財政状況の都合が関係あるなら、本件に関わらず、素直に宣言か事業を撤回すべき。
22	多子世帯サポートクーポン券	第2子から使えるようにすべきでは。
23	利用者支援事業（基本型）	子どもと一緒にだと相談しにくい。子どもを誰かが見てくれて、それから1人で相談できるような体制は出来ないのか。
24	地域子育て支援拠点事業	フォンテ秋田のスペースは何度も利用したいが、照明などが暗い。弘前市のように、全フロア借り切り、もっと広く・明るくしてほしい。
25	ファミリー・サポート・センター事業	利用者側も講習を受ける必要があるなど、忙しくて、利用するにはハードルが高い。制度は良いと思いますので、もっと利用しやすい工夫をしてほしい。
26	父親の育児参加の啓発	特に母親に余裕を持たせる為にも、「父親の育児参加の啓発」は重要。例えばイベントを通して、父親がより積極的に子育てを行うような機会の創出や、父親サークルのような父親同士の仲間づくりの為の支援など、父親の育児参加の啓発に、今以上に力を入れてほしい。
27	父親の育児参加の啓発	自分は積極的に参加した。大事だと思ったことは、母親へのアピールと魅力的なコンテンツ（例えば救命救急などの、父母関係なく、どちらかと言えば父が担うような事）だと思う。父子手帳は考えや感想ばかりではなく、実学も入れてほしい。あれでは渡しきりで、自己満足な手帳だと思う。救急対応、毒物、誤飲など。または、母子手帳に入れ込んでほしい。母子手帳を父親が確認しないのは問題だと思うため、一体化して良いと思う。
28	その他	児童センターは無料で助かっているが、2年までは一人で留守番させてはいけないなどのルールを入学前に明示してほしい。
29	乳幼児健康診査	事業として、1ヶ月児の乳幼児検査は入れないのか。
30	両親学級	簡単で良いので、このタイミングで救命救急についても教えて欲しい。
31	乳幼児健康診査	1歳前からあげられるおやつやジュースがあるので、正しい知識提供やブラッシング、スクレーリングを実施してもらえると安心。病院と家庭の2本立てで対応できるよう検討してほしい。

No.	項目	意見要旨
32	幼児食教室	共働き世帯は参加しにくいのでは。オンラインなどで参加できる方法があるとよい。
33	子ども福祉医療費の助成	所得制限は早急に撤廃してほしい。経済的負担もあるが、子どもが具合悪い中、窓口で支払いを待つ無意味な待ち時間、子どもを抱えながら片手で財布を出し入れする負担。市民に負担や時間のロスが発生していることは分かっていると思う。
34	市立秋田総合病院の小児科救急外来の周知	ホームページ等とは。わざわざアクセスする必要のあるホームページで周知することは古い手法では。
35	施策4-1の目標指標について	目標指標の2は、97%を越えているので変更すべきでは。提案として「秋田を好きという児童生徒の割合」はどうか。
36	施策4-1の目標指標について	この指標は取組・事業の何を測るために設定されているのか。指標を見る限り、内面や家庭の問題に切り込んでいくことになりそうだが、最終的に100%を目指すために、90%や99%といった目標値が設定されているのか。単発の目標達成のための数値に見える。
37	事業目標の表現	「向上させ・育成する」がとても大人目線であるように感じる。 例えば、「体験を通して、こどもが自主性や行動力を発揮し、知的好奇心を高めるとともに、思いやりの心を育むことができるよう体験活動の充実を図る。」
38	その他	児童生徒の不登校増加傾向が続く中、保護者や子どもの不安・悩みに対する相談活動・相談体制の充実に向けての取組には感謝したい。
39	地域におけるこども子育て支援の充実、家庭や地域の教育力の向上、世代交流事業	核家族で高齢者と触れ合ったり遊ぶ機会が減ってしまいましたが、働いている父母たちは忙しく子供と一緒に遊ぶ時間は少ないので、世代交流は大切だと思う。自分が子育てをしている時は仕事と子育てで余裕がなく子供たちとゆっくりかかわる事が出来なかった。今、60代になり孫たちと一緒に遊びを楽しんでいる事に気づいた。孫たちは千葉に住んでいるが、私の気持ちにも余裕が出来、ゆっくりとした気持ちで孫たちに接する事が出来、孫たちとの絆も深まったと思う。 子どもが大人になり地域との交流は減ってしまったが、春と秋の町内の大清掃、秋の東地区の運動会は高齢者と子供たちが自然にかかわれて良い行事だと思う。 今年の夏、千葉に住んでいる孫が駅東竿灯会の竿灯に参加させてもらう事が出来た。姉や弟も兄を探し応援した。戻り竿灯は家の近くだったので、80代の母もひ孫の応援が出来、喜んでいて。竿灯会の皆様が温かく迎えてくださり、初めて、秋田の地域の方々と一緒に竿灯祭りに参加出来た事は大人になっても心に残る思い出になったと思う。 子供たちが伝統文化に触れることは少ないので、竿灯、ぼんでん、なまはげ、茶道、華道、書道等高齢者の方と一緒に参加できる機会があれば交流も広がり良いと思う。
40	世代間交流事業	特に高齢者と乳幼児の交流は重要だと思う。町中でも、お互いに「かわいいね」「ありがとう」と声を掛け合うことで良い時間が生まれることは、子育てしていればよくある経験。親も、可愛いと言ってくれたり、孫のように扱ってくれたりすることに悪い気はしないと思う。高齢者にとっても子どもが笑ってくれれば嬉しいと思う。ぜひ、こういった高齢者の多い秋田における現実的で先進的な取組を進めてほしい。

No.	項目	意見要旨
41	その他	スポ少や習い事をさせたくても、送り迎えや金額的に厳しい。放課後に児童センターや学校の体育館で、クラブ活動のようなものを開催してもらえると有り難い。地域のシニアスポーツ団体と連携することで、世代間交流にも繋がるのでは?土日に親子で参加できるものなどがあると、町内会などの垣根を越えて楽しめそう。
42	子ども会活動の表彰	子どもが減少している中で、私自身の身近には子ども会が活発に活動できるほどの子どもがいない地域もあり、優れた活動の表彰以外に現状に適した支援もあるのではないかと感じる。
43	スポーツ教室	子どもが体を動かして活動する体験を保障することについては異論ない。ただし、現在の国の保育の基準では、保育の中心は子ども主体の自発的な遊びであり、特定の知識や技能を一律に子どもに求めることは適切ではないことが明確に謳われている。幼児期の子どもにとっては、あくまでも遊びの延長としてということをご理解いただきたい。 またスポーツ指導を実施している園のこどもと、子どもが自由に遊んでいる園の子どもの運動量・運動能力を長年にわかって比較した研究データでは、全員に対してスポーツ指導の時間を設けて実施している園の子どもよりも、自由な遊びの時間を十分にとっている園の子どもの方が運動量が多く運動能力も高かったというデータもある。 体を動かして遊ぶ機会、スポーツに親しむ機会は体験として意味あることだと思うが、「教室」としての実施であれば日常的なことではないので、大きな問題とは言えないと思うが、現在の保育で求められている基本の方向性はご理解いただきたい。
44	学校体育施設の開放事業	秋田市には大型で無料の子どもを遊ばせる施設がなく、作る予定もないようだが、雨や雪の日でもあそべる事業はありがたい。周知と共に、ぜひ利用を推進してほしい。
45	ワーク・ライフ・バランスに関する広報・啓発	イベントは、興味と時間のある人しか参加しない。興味や時間が無い人に対しても広報・啓発すべき。
46	父親の育児参加の啓発、ワークライフバランスの推進	子育ては一緒に育て合う事が大事で、父親の育児参加はとても大切だと思う。赤ちゃんが産まれて、一カ月は母親にとっても体調が戻らず大変なので、父親には出産前に家に赤ちゃんが帰って来てからスムーズに育児が出来るようにオムツ交換、ミルクの飲ませ方、入浴のやり方等覚えてほしいと思う。 後は男性の方が、自分の事を自分でしてくれるだけでも負担は違うと思う。(世代の違いでそう思うのかもしれない。) 父親むけの育児のパンフレット、上の子供がいる時は上の子供とのかかわり方、遊ぶヒント、出産時、出産後の母親の体調が書かれたパンフレットがあれば良いと思った。 先日、東部公民館で「うちの3姉妹が応援、あきたて出産、子育てガイドブック」を見つけ、育児に困った時に助かる情報がたくさんあり良いと思った。
47	まちあかり・ふれあい推進事業	町内会によっては防犯灯に無関心なところもある。より一層、連携を深める対策が必要。
48	子育てにやさしい施設	子育てに優しい施設は探しにくい。検索サイトはPC表示のみで、スマートフォンでは見づらい。一覧も総数表示が最初に見えるので、探す気力が無くなる。結果、一度検索して、その後使っていない。利用者目線を欠いているので、外部委託してほしい。
49	ひとり親家庭の自立支援の推進	機動的に対応できる事業を検討すべきでは。移住者が離婚したケースなど、周りに親戚などの頼れる人が居ないケースもある。現実的な施策を期待する。

No.	項目	意見要旨
50	医療的ケア児保育支援事業	<p>プランの中で保育所等へ補助金の交付、人員補填に対する費用補助を謳っているが、そこにもうひとつ、「市内各施設・相談支援員・医療機関同士での利用者及び利用希望者の情報共有」の項目も追加してほしい。現状では「障がい児は受け入れたことがない」「わからない」と門前払いされるケースがとても多く、病障がい児の受け入れ実績があるところのみに希望者が殺到しており、また、住まいの近くや職場の近くの園では受け入れ経験がないことなどを理由に断られるため、実質病障がい児同士で少ない席の取り合いが続いている。すでに受け入れ実績のある園が市内の他の公立私立園と情報共有をして受け入れ体制を拡充強化してほしい。（【医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律-第11条、13条】）</p>
51	障がい児等に対する支援の充実について (障がい児保育事業/医療的ケア児保育支援事業)	<p>【要点】 障がい児や医療的ケア児の受け入れ経験のある園の情報を他の園や関係機関で共有して、より多くの園が障がい児や医療的ケア児を受け入れやすい環境を整えてほしい。</p> <p>【意見】 私は現在、持病のある未就学児を育てている母親です。障がい児保育への補助金や、医療的ケア児の受け入れのための看護師等の配置に関わる費用への助成を案に組み込んで下さり、ありがとうございます。大変心強いです。それに追加して、保育所等で障がい児を実際に受け入れた(受け入れている)経験のある園の情報を、受け入れたことのない園にも情報共有して頂きたいです。 子供の障がいが見つかってから保育所等を2年近く探した経験がありますが、『受け入れ経験がない』ことを理由に断られた事が何度もあります。保育所等が、障がいのある子を受け入れた後の対応が不安というのもよく分かります。そこで、今までに受け入れをしている園の事例を集めて、医療的ケア児支援センターなどを通して、ケーススタディなどで他の保育所等にも情報を共有して頂きたいです。 2026年度からこども誰でも通園制度の本格運用が開始されます。すべての子どもが対象の制度ですが、保育所等の受け入れ体制が整わなければ、障がい児や医療的ケア児は制度を活用できません。 すべての子どもの健やかな成長のための支援体制の充実をお願いします。</p> <p>【法的根拠】 医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律-第11条、13条</p>
52	施策7-2の目標指標について	<p>子育てで出費がかさむことに悩む人の割合について、年間で約1%下げる事になっているが、年間人数は何人か。①において、出費がかさむことに悩む人の割合は4割をキープし、②においては同じ4割まで下げるでもなく、5割を悩ませたままである。つまり、4割から5割という約半数の市民は6年経っても出費がかさむことに悩んでいる状態を秋田市は放置するということか。我慢しろと言っているように見え、これでは成果が得られないのは当然だと思う。</p>
53	第1子保育料無償化事業	<p>所得制限を再考してほしい。第2子以降の選択肢がなくなり、特に中間層は余裕がない。これでは、経済的にも人口的にも、下降する一方だと思う。</p>

No.	項目	意見要旨
54	小児科病棟における保護者付き添い入院の義務について	<p>現在、秋田市内すべての総合病院において未就学児と障がい児の入院には必ず保護者の付き添い入院が求められている。制度上は任意とのことですが、実態は「必ず保護者同伴で入院」。入院対象の病児の他にこども（きょうだい児）がいても、必ず親のどちらかが病室ベッド脇に24時間待機していなければならない規則になっている。1週間以内の短期入院であれば多少の無理は利くが、半月～年単位の中長期入院でも同様の事態になっており、すでに祖父母等親族の支援が見込めない家庭もあり、親たちの間で悲鳴が上がっている。また、秋大病院等多くの院では付き添い入院の保護者への寝床・食事の提供がなく（有料貸し出しベッドの用意はあるが小柄な女性対象で大柄な大人が使えない、そもそも小児病棟の一人分のスペースがこども用ベッド一台分しかない）、簡易ベッドが置けない等物理的に使用が難しい）、特に産褥期に出産直後の乳幼児との長期入院を経験した保護者たちは「服役するよりキツイのでは」「受刑者より酷い扱い」「（この入退院が続く限り）二人目以降は絶対に無理」と絶望の声が上がっている。</p> <p>【医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律】を根拠に、現在、厚労省とこども家庭庁を中心に全国的な動きになっている様子があり、これから少しずつ改善するものと期待しているが、できるだけ早く秋田市としても小児病棟付き添い入院必須の条件緩和に向けて人的支援等、検討できないか。</p>
55	その他	イベント等は秋田市だけでなく、他の市町村にも発信したり他の市町村でも行えるようにしてほしい。
56	その他	大規模な子ども等が遊べる施設を作ることはないとのことだが、検討してほしい。民間施設などは出費がかさみ、中々難しいが、子ども達を思いっきり遊ばせてあげたい。特に全天候型の施設がない。事業者等に外部委託など、工夫して対応してほしい。
57	その他	子育てする環境に適した企業（ファミレスやスーパー、食品関係、ベビー用品、おもちゃなど）を誘致する施策がないと思う。「子育て安心な秋田市」と口では簡単に言えるが、では例えば、急遽夜ご飯を外食することになって選択肢が少ない、公共交通機関で行ける場所が無いというのは子育て安心なところと言えるのか。それでは田舎で子育てではなく、便利な県外へ転職を考えてしまう人も出てくる。経済発展も含めて、オール秋田で総合的な施策を進めるべき。
58	全体的な目標指標について	<p>目標指標の数について、施策ごとに指標が3つ以上は多い。評価がぼやけやすくなり、センシティブに評価の善し悪しが分からなくなる。もし、3つ以上の指標を使う場合は、複合指標も設定すべき。すでに現状値で9割を達成している指標はほとんど意味がない。（中には100%を目指すべきものもあり、押し並べて、全て、というわけではない）ので別の指標を設定すべき。まず課題があり、それを改善するために事業を行う、これが事業の基本であり、現状値が悪いものを指標に設定すべき。9割を達成しているということは、課題が改善された、と認識される。また、数値を設定する場合（来館者、利用者など）は、数年後にどこまで増やすのかその根拠・考え方をしっかり持ち、示すべき。分かりやすく、合理的なものにすべき。</p> <p>また、目標指標のデータの入手方法を明記すべきでは。比較年度について、目標指標は現状値と目標値だけだが、中間目標となる年度の数値も入れてもいいのでは。</p>
59	その他	<p>どこに該当するか分からないが、未就学児と小学生の兄弟が一緒に遊べて、どちらも満足できる屋内施設が秋田県児童会館しかない。一人が小学生になってからは、土日にどこへ連れて行くか頭を悩ませていて、近隣県の施設が羨ましく感じてしまう。</p> <p>最後に、このような子育て世帯のリアルな声をもっと気軽に集められるよう、遊び場にアンケートのQRコードを貼るなどの体制を検討いただきたい。</p>

No.	項目	意見要旨
60	その他	保健所まで行く公共交通機関の利便性が悪い。利便性を向上させるか、別の場所（駅前など）に集約することなどを検討すべき。車の無い人は、暑い夏や寒い冬、時間の合わない中、大変な思いをしてたどり着いている。もしくは、対面に拘らず、保健所に行かなくても済むようなオンライン等での対応をお願いしたい。
61	その他	病児保育の情報をもっと発信し、身近に利用できるようにすると子育ての親は助かると思う。
62	その他	市営バスの学割の定期券料金が高く、交通が不便な地域の私の家庭では、大きな負担となっている。料金をもっと手頃にしてほしい。
63	その他	高校・大学を卒業してからの職場としたい企業等をどれだけ増やせるかが喫緊の課題である。ここに大きな人口流出→少子化の課題があることは秋田市民の悩みでもある。